

令和元年度(2019年度)

管理事業名	子供の生活支援事業				総合計画の体系	大綱 4 子育て・学び 政策 1 子育てしやすいまちづくり 施策 3 配慮が必要な子供・家庭への支援
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 3	民生費	(項) 1	社会福祉費	(目) 1 社会福祉総務費
部局名	児童部 福祉部	予算執行所属	家庭児童相談課 生活福祉室			
予算大事業名	子供の生活支援事業					
子供の生活支援事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
事業の目的と概要 【目的】 子供たちの将来が生まれ育った環境によって左右されることなく、すべての吹田の子供たちが夢と希望を持って成長していける地域社会の実現を目指します。 【概要】 子どもの生活支援事業(「吹田市子供の夢・未来応援施策基本方針」に基づき、子供に関する施策・事業を担う関係部局が連携し、子供の貧困対策を推進します。) 子どもの学習・生活支援事業(①おおむね18歳までの子供とその保護者に対し、子どもの健全育成のために、訪問等により日常生活支援・養育支援・教育支援を行います。②中学生に対し、市内4箇所の教室で学習支援教室を行います。) 						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
子供の貧困対策に関するワーキングチーム会議開催回数	回			2	子供の貧困対策に関するワーキングチーム会議を開催した回数
子どもの学習支援教室利用者の高校進学率	%			100	子どもの学習支援教室を利用している中学生3年生の高校への進学率
成果の説明	子供の貧困対策に関するワーキングチーム会議を開催し、関係部局間の情報共有を図りつつ、新たな施策の検討を行いました。学習支援教室は、平成30年度に2教室を拡充し、60人が利用できるようになりました。利用者の高校進学率は、事業を開始した平成28年度から100%となっています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
経常収入				
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	13,545	13,545
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	-	29	29
経常収入 小計(a)	-	-	13,574	13,574
経常費用				
給与関係費	-	-	11,170	11,170
物件費	-	-	16,073	16,073
維持補修費	-	-	-	-
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	81	81
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	-	-	-	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	-	-	-	-
退職手当引当金繰入額	-	-	-	-
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	-	-	27,324	27,324
経常収支差額(a)-(b)=(c)	-	-	△13,750	△13,750
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	-	-	△13,750	△13,750
一般財源充当額	-	-	13,750	13,750
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	-	-	-	-

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入 国庫支出金	子どもの学習・生活支援事業費補助金 13,545千円
給与関係費	子ども健全育成生活支援員給与等 11,170千円
物件費	子どもの学習支援教室事業委託料 16,006千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	-	13,574	-
行政サービス活動支出	-	-	27,324	-
行政サービス活動収支差額	-	-	△13,750	-
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	-	-	△13,750	-
一般財源充当額	-	-	13,750	-
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	平成29年度		円	学習支援教室利用者1人あたり262,393円のコストがかかっています。なお、学習支援教室は平成30年度8月より事業拡大を行っていることから単位あたりのコストが増えています。
	平成30年度		円	
	令和元年度	61人	262,393円	
	平成29年度		円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	-	-	-
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	地方債	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
固定資産	-	-	-	負債の部合計	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	純資産	-	-	-
土地	-	-	-				
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	-	-	-
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	-	-	-	負債及び純資産の部合計	-	-	-

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

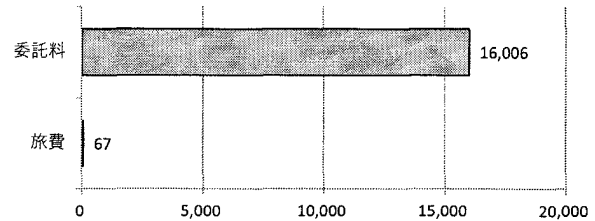
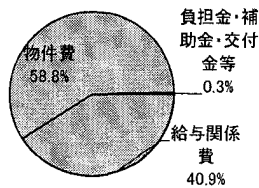
事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事日数	実人数	
	人	3人	日	人	
給与関係費等	千円	11,170千円	千円	千円	11,170
内、時間外勤務手当	千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			
		平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差 B-A
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		-	-	50.3	50.3

▽その他特記事項

IV 総括

▽分析結果の説明

経常費用の58.8%を占める物件費は、子どもの学習支援教室の委託料がその大部分を占めています。総合計画の体系に沿って事業単位の再編を行ったため各表の過年度の数字については表示されません。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

子供の貧困については、経済的な困窮だけでなく、子供の健全な育成に必要とされる人的資源や社会的資源の不足など複合的な要因が関係していることから、様々な視点を持って対策を講じる必要があります。そのため、今後も引き続き関係部署が連携しながら、新たな子供の貧困対策の推進に取り組みます。
子どもの学習支援教室事業については、支援対象者が社会的、経済的等複合的な課題を抱えている配慮の必要な世帯が多いため、より細やかな支援が重要であると考えます。
家庭児童相談課所管の子供の生活支援事業は令和2年度から子育て政策室に移管しました。